

技術とビジネスを結ぶ情報誌

# 印刷界

2012.8月号

AUGUST

昭和31年7月4日第3種郵便物認可  
毎月1回10日発行705号 2012年8月10日発行

特集

## 本格普及に向けて 動き出す電子書籍

増えるデバイスとコンテンツ  
紙と電子の相乗効果  
印刷会社が主役に  
市場拡大の課題

## 新開発の VOC 処理装置をレンタル展開へ

モリカワ サービス料だけで VOC の除去・再利用が可能に

環境機器製造・販売の(株)モリカワ(本社・東京都豊島区上池袋1の33の20、森川潔社長)は、揮発性有機化合物(VOC)ガスを排出する印刷業者向けに、初期投資や保守管理者を要せず、サービス料だけでVOCの除去・再利用を可能とする新ビジネスモデル「移動分離型VOCリサイクルシステム」を開発、2013年春から関東エリアを中心にサービスを開始する。

印刷工場ではVOC排出抑制対策として、燃焼処理するのが一般的となっている。しかし、処理装置を導入するには2000万円以上の投資が必要で、さらに保守管理費や燃料代など毎月30万円程度かかるなど、印刷業者にとって大きな負担となっている。

### 負担が少ない新ビジネスモデル

今回モリカワが開発した「移動分離型VOCリサイクルシステム」は、印刷会社で求められる中風量(50~100m<sup>3</sup>/分)に対応したVOC処理装置をレンタルするもので、初期投資が不要、ランニングコストは月々のサービス料(1台につき約20万円を予定)のみでVOC排出量の削減とコストダウンを同時に実現できるのが最大のメリットである。

具体的には、印刷工場で発生するVOCの排出口などに活性炭吸着塔を設置し、モリカワがセンシング技術で吸着塔の交換時期を管理して適正時期に交換する。使用済みの吸着塔は、物流・液化再生・再生液販売会社の日興化成(株)(埼玉県さいたま市)が専門処理基地に輸送して独自の技術・システムによってVOCを脱着し、混合溶剤や水溶性溶剤をもりサイクル可能とする。回収した活性炭やVOCは再利用する。

### 「新連携支援事業」に認定

「移動分離型VOCリサイクルシステム」は様々なVOCガスの発生施設の実態を熟知し、多くの除去・回収装置の販売と管理の実績を持つモリカワと、使用済みの溶剤廃液を再生する技術、再生液を販売するネットワーク、廃棄物の中間処理施設関連許可などを持っている日興化成の技術・ノウハウを活かした連携事業として、関東経済産業局から平成23年度異分野連携新事業分野開拓計画に係る「新連携支援事業」(事業化・市場化支援事業)に認定されている。

嶋田毅プロジェクトリーダーは、「数年後の生産計画が見えない中で、設備投資するにはリスクが大きい。VOC処理装置をレンタルすることで、これまでの負担を3割以上減らすことができる。VOCを燃やさず回収・再利用することで地球環境にもやさしいシステムである」と利用を呼び掛けている。

モリカワでは今後、フィージビリティスタディ(FS)を行い、2013年春から関東エリアでレンタル事業を開始し、以後、全国展開を図り、3年後の15年度に10億円の売上を見込んでいる。

問合せ=モリカワ東京営業所・環境機器部門、電話03・5907・3784

